

「ピグマリオン」参考資料のご案内

新国立劇場でのご観劇前に作品に対する理解の一助として、また、観劇後の感動をさらに深めるために、5階情報センター閲覧室にてご覧いただける参考資料を紹介します。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

開室時間：10:00～18:00 月曜休室（祝休日及び主催公演日は他曜日に振替）

過去の公演プログラム

1998/1999 SEASON ディア・ライアー すてきな嘘つき（1998.11）

「ピグマリオン」の作者バーナード・ショーと、英国演劇界伝説の女優パトリック・キャンベルとの数百通に及ぶ往復書簡をもとに、ジェローム・キルティが舞台化した作品。

なお、当該公演を演出した宮田慶子（現新国立劇場演劇芸術監督）が、今回の「ピグマリオン」を演出する。

参考図書

<作品関連>

バーナード・ショー名作集 新装復刊

鳴海四郎・中川隆一・喜志哲雄・倉橋 健・小田島雄志・升本匡彦＝訳／白水社 2015 年発行

「カンディダ」「悪魔の弟子」「人と超人」「ピグマリオン」「聖女ジョウン」「デモクラシー万歳!」を収録。（書物復権）

人と超人 ピグマリオン ベスト・オブ・ショー 倉橋 健・喜志哲雄＝訳／白水社 1993 年発行

淑女(レディ)のお作法 高橋いさを＝著／論創社 2008 年発行

『ピグマリオン』を翻案した作品。戯曲「Masquerade～マスカレード」と併録。

Pygmalion Bernard Shaw＝著／英潮社 1970 年発行

<プログラム／上演台本>

演劇集団円プログラム／上演台本 マイ・フェア・レディー・イライザ（1993）

東京宝塚劇場上演台本 マイ・フェア・レディー（1963）

<ショーの他の著作>

傷心の家－イギリスの主題をロシア風に扱った幻想劇（ファンタジア） 飯島小平＝訳／新書館 1989 年発行

恋愛遊戯にあげくれるロンドン郊外の中産有閑家庭を舞台に、88 歳の老船長と若く美しい娘の奇蹟のようなラブ・ロマンスを、文明の嵐を生きぬく真の叡智を込めて描く、イギリス版『桜の園』。

完全なるワーグナー主義者 バーナード・ショー＝著／高橋直也＝訳／新書館 2003 年発行

音楽評論家として出発したバーナード・ショーが、まず手がけたのは革命的なワーグナー論だった。

<作家関連>

バーナード・ショーへのいざない 生誕 150 周年記念出版

日本バーナード・ショー協会＝編／文化書房博文社 2006 年発行

94 年に及ぶ長寿を膨大な量の執筆活動に費やしたバーナード・ショー。生誕 150 周年を記念して、日本バーナード・ショー協会の会員たちが戯曲を中心に 22 篇を選び、自分なりのショーの楽しみ方を披露する。

マイ・フェア・レディーズ バーナード・ショーの飼いなされないヒロインたち

大江麻里子＝著／慧文社 2005 年発行

バーナード・ショーの演劇作品に登場する、闊達で機知に富み、しばしば「女らしくない女」と評されるヒロインたちの分析を通じて、ショーの理想とした男女関係や社会のあり方を探る。英文学研究者・演劇研究者必携。

ドラマの誕生 バーナード・ショー 清水義和＝著／文化書房博文社 2003 年発行

劇作家ショーの全作品をもとに、ショーの劇芸術について論ずる。

ドラマの世界 バーナード・ショー シェークスピアからワーグナーまで 清水義和＝著／文化書房博文社 2002 年発行

バーナード・ショーの初期、中期の劇作品を対象にした論文集..。

バーナード・ショー ファンタジーの世界 ワグナーからサルトルまで 清水義和＝著／文化書房博文社 2001 年発行

バーナード・ショー 世界と舞台 イプセンからプレヒトまで 清水義和＝著／文化書房博文社 1999 年発行

バーナード・ショーの劇作品と評論に関する論文集。

シェイクスピア批判で知られるバーナード・ショーの作品と思想 小幡正子＝著／文化書房博文社 2001 年発行

バーナード・ショーの作品と思想についてこれまでに纏めた論文を集めたもの。

バーナード・ショーの劇世界 新版 飯田敏博＝著／いなほ書房 2001 年発行

ショーのシェイクスピア論、舞台女優のショー劇上演、ショーの戯曲、映画についての論文を集めたもの。

戯曲 薔薇とキャベツ バーナード・ショーの結婚生活 小幡正子＝著／いなほ書房 2007 年発行

英文学ではその独特の戯曲群によって輝かしい地位を保っているバーナード・ショーの妻を主人公にした戯曲。徹底的に「影の人」として夫を支える役割を選んだシャーロット・ショーの人生を描く。

ショー・シェークスピア・ワイルド移入史 ー逍遙と抱月の弟子たちー 市川又彦・坪内士行・本間久雄の研究

清水義和＝著／文化書房博文社 1999 年発行

明治の演劇人、市川又彦、坪内士行、本間久雄の研究業績を辿る。先ず、市川のショー研究を歴史的に辿ると、坪内逍遙と島村抱月の後姿が見えてくる。次に、市川の同時代の研究者である士行、本間がショーについて様々に発言していた事が分ってくる。又、市川、士行、本間たちの研究を辿ると三者共通の師である逍遙と抱月の姿が見えてくる。

バーナード・ショー研究 日本バーナード・ショー協会＝編／学書房出版 1986 年発行

バーナード・ショー 虚構と現実 山本達雄＝著／開文社出版 1981 年発行

現代演劇 No.3 バーナード・ショウ 現代演劇研究会＝編／英潮社フェニックス 1980 年発行

笑う哲人バーナード・ショー 市川又彦＝著／早稲田大学出版部 1975 年発行

バーナード・ショー コリン・ヘンリ・ウィルソン＝著／中村保男＝訳／新潮社 1972 年発行

欧米作家と日本近代文学2 英米編 比較文学シリーズ 教育出版センター 1975 年発行

バーナード・ショーについては、升本匡彦氏が記述。

※バーナード・ショー関連資料は他にも多数ございます。お気軽にお問合せください。